



2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月13日

上場会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 上場取引所 東
コード番号 6063 URL <https://emergency.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 潔
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員企画部長兼IR室長 (氏名) 工藤 信幸 TEL 03-3811-8123
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	2,170	△23.7	30	△82.1	51	△72.5	35	△72.6
2023年12月期第3四半期	2,845	△40.0	168	△72.7	188	△70.9	130	△70.9

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 48百万円 (△72.9%) 2023年12月期第3四半期 180百万円 (△65.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	14.17	-
2023年12月期第3四半期	51.71	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第3四半期	3,737	1,754	45.7
2023年12月期	3,685	1,713	45.3

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 1,707百万円 2023年12月期 1,670百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	-	5.00	-	5.00	10.00
2024年12月期	-	0.00	-	-	-
2024年12月期（予想）	-	-	-	-	-

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2024年12月期の期末の配当予想は、現時点では未定です。

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

通期	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	3,000	△16.6	70	△59.6	90	△50.4	60	△50.0	23.81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

詳細は、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご参照ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

（4）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年12月期3Q	2,519,600株	2023年12月期	2,519,600株
2024年12月期3Q	430株	2023年12月期	430株
2024年12月期3Q	2,519,170株	2023年12月期3Q	2,519,206株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、企業収益及び雇用環境の改善が続く中、景気は穏やかに回復を示すものの、消費者物価の上昇、長期化するウクライナ情勢、緊迫化する中東情勢、世界的に金融引締めが進む中で金融資本市場の変動、円安傾向の恒常化や資源エネルギー価格の高騰など、引き続き厳しい状況が続いております。

当社グループの主要事業の業績に影響を与える出国日本人数につきましては、7月は1,048,823人(前年同月比17.6%増)、8月は1,437,127人(同19.7%増)、9月は1,212,600人(同20.7%増)と前年同月比で増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には戻っておりません(日本政府観光局(JNTO)調べ、9月はJNTO推計値)。また、海外からの訪日外客数は、7月は3,292,602人(前年同月比41.9%増)、8月は2,933,000人(同36.0%増)、9月は2,872,200人(同31.5%増)と、8か月連続で同月過去最高を記録しました(JNTO調べ、8、9月はJNTO推計値)。

医療アシスタンス事業の売上高は、訪日外客数が急回復を遂げ、8か月連続で同月過去最高を更新したものの、出国日本人数は足元では着実に回復しつつも2019年の水準には届いておらず、厚生労働省から受託しておりました新型コロナウイルス感染症関連事業が2023年5月末をもって終了した影響を補うまでには至らず、前年同期比で減少となりました。

ライフアシスタンス事業の売上高は、既存取引先との契約見直し等により、前年同期比で増加となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,170百万円(前年同期比23.7%減)と減収となりました。また、売上原価も、1,573百万円(同27.3%減)と減少し、販売費及び一般管理費は566百万円(同10.7%増)、営業利益は30百万円(同82.1%減)、経常利益は51百万円(同72.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は35百万円(同72.6%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(医療アシスタンス事業)

(i) 海外旅行保険の付帯サービス

海外旅行保険の付帯サービスに関しましては、出国日本人数が徐々に回復傾向にあること等から、売上高は前年同期比で増加し、2019年と同等の水準にまで改善しております。

(ii) 法人向け医療アシスタンスサービス、留学生危機管理サービス、セキュリティ・アシスタンスサービス

当社グループは医療アシスタンスサービスとセキュリティ・アシスタンスサービスの両サービスを企業・大学に提供しております。

法人向け医療アシスタンスサービスは、売上高が前年同期比で増加し、安定的な収入源として寄与しております。セキュリティ・アシスタンスサービスは、企業向けの地政学的な有事に備えるための緊急退避基本マニュアルの提供により、前年同期比で増加しました。また大学向けの留学生危機管理サービスにつきましても、夏以降の留学生の増加により、売上高が前年同期比で増加しました。

(iii) 救急救命アシスタンス事業

救急救命アシスタンス事業は、民間企業が海外の僻地で取り組む大規模建設工事現場にサイトクリニックを設置し、医師・看護師・救急救命士が、病人や怪我人の対応を行う事業「EAJプロジェクトアシスト」です。

現場サイトでの日本人医療者派遣は継続しているものの、前年同期比で売上高は若干減少しましたが、安定的な収益源として寄与しております。

(iv) 国際医療事業(医療ツーリズム)

国際医療事業(医療ツーリズム)につきましては、案件数の増加により、売上高は前年同期比で増加しております。中国では未病段階のヘルスケア/ウェルエイジングへの関心が高まっており、ベトナムや韓国等からの需要も増加傾向にあります。こうした市場構造の変化を捉える事業体制に刷新するとともに、国内外の医療機関、エージェントとの連携強化を図り、国際的な医療交流のプラットフォームを目指します。

(v) 訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業

日本国内で外国人が病気や怪我など不測の事態が起こった場合の医療アシスタンスサービスの提供機会は、訪日外客数の急増にともない増加し、売上高は前年同期比で増加しております。

(vi) 官公庁受託事業（ワンストップ相談窓口）

厚生労働省や大阪府その他の自治体より、外国人診療に関する相談窓口を順調に運営し、医療機関向けの相談対応業務を実施しております。厚生労働省からの受託額の減少により、売上高は前年同期比で減少しました。今後、地方自治体や医療機関との外国人患者受入に関する連携の一層の強化を目指します。

(vii) EMIS（広域災害・救急医療情報システム）代替サービス事業

かねてより「ACS（Assistance Cloud Service）関連事業」として取り組んでまいりました新規事業につきまして、厚生労働省から「ローコーディングツール等を軸とした保守性・拡張性・連携性の高い現場視点のEMIS代替サービス提供・運用等に係る業務一式」を受託しました。当社は、本業務においてローコーディングツールを活用し、迅速かつ効率的な開発を行うことで、現場の要望に柔軟に応え、災害時の情報連携を強化し、我が国の災害対応力の向上に大きく貢献してまいります。第4四半期での売上計上を予定しております。

なお、厚生労働省から受託しておりました新型コロナウイルス感染症関連事業が、2023年5月末をもって終了したため、官公庁受託事業全体の売上高は、前年同期比で減少となりました。

これらの結果、医療アシスタンス事業の売上高は1,838百万円（前年同期比27.6%減）、セグメント利益は330百万円（同23.3%減）となりました。

(ライフアシスタンス事業)

ライフアシスタンス事業では、既存取引先との契約見直し等にもない、前年同期比で売上高が増加しました。その結果、ライフアシスタンス事業の売上高は331百万円（前年同期比8.3%増）、セグメント利益は64百万円（同3.4%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ52百万円増加し、3,737百万円となりました。主な増減要因としては、現金及び預金225百万円の増加、立替金145百万円の減少がありました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ11百万円増加し、1,983百万円となりました。主な増減要因としては、買掛金19百万円の増加、短期借入金100百万円の増加、賞与引当金32百万円の増加、契約負債136百万円の減少がありました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ40百万円増加し、1,754百万円となりました。主な増減要因としては、利益剰余金23百万円の増加、為替換算調整勘定13百万円の増加がありました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

経済社会活動の正常化が進む中、当社グループの主要事業である海外旅行保険付帯の医療アシスタンスサービス等既存事業の売上は、出国日本人数や訪日外客数の増加傾向にともない着実な回復基調にあります。

一方、厚生労働省から受託しておりました新型コロナウイルス感染症関連事業が2023年5月末をもって終了したことにより、通期での官公庁関連事業の売上は大幅に減少しております。

これらを受けまして、当連結会計年度の通期業績予想につきましては、2024年8月20日に公表しました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、売上高を3,000百万円（前期比16.6%減）、営業利益は70百万円（同59.6%減）、経常利益は90百万円（同50.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は60百万円（同50.0%減）、1株当たり当期純利益は23.81円を予想しております。

上記業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,266,765	2,492,491
売掛金及び契約資産	169,455	172,928
仕掛品	-	19,752
立替金	745,729	600,503
その他	279,344	217,504
貸倒引当金	△952	△4,212
流動資産合計	3,460,343	3,498,967
固定資産		
有形固定資産	83,786	72,426
無形固定資産	55,773	69,117
投資その他の資産	85,454	97,252
固定資産合計	225,014	238,795
資産合計	3,685,357	3,737,762
負債の部		
流動負債		
買掛金	21,944	41,267
短期借入金	1,080,000	1,180,000
1年内返済予定の長期借入金	8,000	-
未払法人税等	1,290	854
賞与引当金	-	32,081
契約負債	501,665	365,352
その他	324,924	324,355
流動負債合計	1,937,824	1,943,910
固定負債		
その他	33,598	39,420
固定負債合計	33,598	39,420
負債合計	1,971,423	1,983,330
純資産の部		
株主資本		
資本金	312,001	312,001
資本剰余金	201,477	201,477
利益剰余金	1,034,470	1,057,583
自己株式	△517	△517
株主資本合計	1,547,431	1,570,544
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	123,543	136,709
その他の包括利益累計額合計	123,543	136,709
新株予約権	42,960	47,178
純資産合計	1,713,934	1,754,432
負債純資産合計	3,685,357	3,737,762

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	2,845,824	2,170,031
売上原価	2,165,179	1,573,041
売上総利益	680,644	596,989
販売費及び一般管理費	512,059	566,883
営業利益	168,585	30,106
営業外収益		
受取利息	1,631	2,745
為替差益	21,634	21,505
その他	1,070	2,052
営業外収益合計	24,336	26,304
営業外費用		
支払利息	3,820	4,518
その他	539	76
営業外費用合計	4,360	4,595
経常利益	188,561	51,815
特別利益		
新株予約権戻入益	-	1,038
特別利益合計	-	1,038
特別損失		
固定資産除却損	216	2,700
特別損失合計	216	2,700
税金等調整前四半期純利益	188,344	50,152
法人税等	58,070	14,443
四半期純利益	130,273	35,708
親会社株主に帰属する四半期純利益	130,273	35,708

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益	130,273	35,708
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	50,046	13,166
その他の包括利益合計	50,046	13,166
四半期包括利益	180,320	48,875
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	180,320	48,875

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	36,415千円	35,349千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療アシスタンス 事業	ライフアシスタンス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,539,368	306,455	2,845,824	-	2,845,824
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,539,368	306,455	2,845,824	-	2,845,824
セグメント利益	430,814	67,147	497,962	△329,377	168,585

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療アシスタンス 事業	ライフアシスタンス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,838,092	331,938	2,170,031	-	2,170,031
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,838,092	331,938	2,170,031	-	2,170,031
セグメント利益	330,453	64,887	395,341	△365,234	30,106

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。